

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, October, 2005

課長 関 勉 T. Seki 幹事 佐藤裕久 H. Sato
幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

10月の状況 (佐藤)

P/2005 T4 (SWAN)

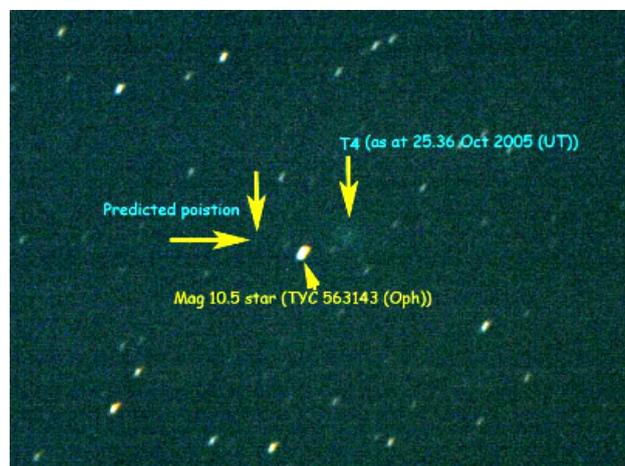
10月22日付のCBET 261によれば、Robert D. Matson (Newport Coast、カリフォルニア)とMichael Mattiazzo (Wallaroo、南オーストラリア)は10月前半のSWAN画像から彗星の存在を報告した。Matsonは、光度は10等より暗かったと指摘。一方Mattiazzoによると、10月9日は光度9等で13日までに10等まで暗くなったという。

E. J. ChristensenとR. H. McNaughtがCatalina Sky Surveyの0.68-m SchmidtとSiding Spring Observatoryの1.0-m f/8反射で確認観測を行った。集光のあるコマが観測された。

中央局のBrian G. Marsdenによって暫定放物線軌道が計算され、2005年10月初旬に近日点を通過し、近日点距離0.6 AU、軌道傾斜角が 160° ほどの逆行の彗星であることがわかった。

10月23日、埼玉県上尾市の門田健一氏は、25cm反射+CCDでほぼ予測どおりの位置にCCD全光度12.6等のこの彗星を捉えた。翌10月24日、Terry Lovejoy (Thornlands、QLD、オーストラリア)は、10月18日に100mm f2.8 lens+300Dで撮影した画像を公開した。筆者が赤緯の誤りを指摘しつつ改良軌道を知らせたところ、さらに10月9日に撮影した画像の隅にこの彗星が写っていると知らせてきた。また、John Drummond (Gisborne、ニュージーランド)が10月25日8:30 UTに41cm f4.5反射+10Dで写した画像は、暫定軌道要素から計算された位置から約3'外れていた(写真a)。そして10月30日、Mattiazzoから10月14日、27日、30日の精測位置観測が送られきたので軌道改良を行ったところ、SWAN彗星としては初めて30年を切る短周期が計算された。

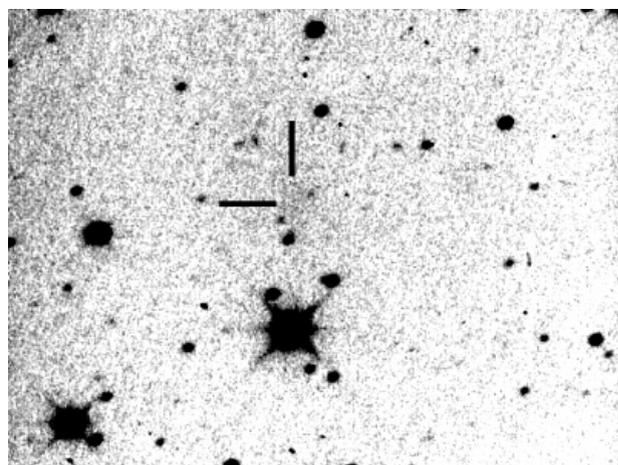
眼視観測では、吉田誠一氏とスペインのJuan José Gonzálezが10月24~26日 UTに $m = 12.0 \sim 12.6$ 、 $\text{dia.} = 1.5 \sim 2$ 、 $\text{DC} = 3$ と観測した。



(写真 a) P/2005 T4 (SWAN) 2005,10,25

20h 25m ~ 35m (NZST) exp.60s x10 41cm L + EOS 10D

© John Drummond, Gisborne, New Zealand



(写真 b) C/2005 P3 (SWAN) 2005,10,13

1h 19m 18s ~ 43m 29s (JST) exp.120s x12 25cm L + CCD

長野県長野市 大島雄二氏

C/2005 P3 (SWAN)

10月に入って、さらに拡散が進み位置観測はほとんど無いが、10月12日 UT、長野市の大島雄二氏がかろうじて確認できる C/2005 P3 を写し止めた(写真 b)。

眼視観測では、ドイツの Werner Hasubick や吉田誠一氏が10月13~24日 UT、 $m_1 = 13.2$ 、 $\text{dia.} = 0.5 \sim 1.3$ と観測した。

その他発見された主な彗星は次のとおり。

P/2005 S3 (Read)

10月7.33日 UT、Michael T. Read が Spacewatch サーベイのプログラムコースに発見。(IAUC 8608, 2005 Oct. 1) その後の観測から10.9年の短周期彗星であることがわかった。

P/2005 T2 (Christensen)

10月7.21日 UT、E. J. Christensen が Mt. Lemmon サーベイのコースで発見。(IAUC 8614, 2005 Oct. 11) 7.5年の短周期彗星である。

P/2005 T3 (Read)

10月7.33日 UT、Michael T. Read が Spacewatch サーベイのプログラムコースに発見。(IAUC 8614, 2005 Oct. 11) 20.5年の短周期彗星である。

P/2005 RV₂₅ (LONEOS-Christensen)

10月22.3日 UT、E. J. Christensen が Catalina スカイサーベイのコースで発見した彗星が、9月11.3日 UT に LONEOS サーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたものと同じであることがわかった9年周期の彗星。(IAUC 8620, 2005 Oct. 24)

P/2005 T5 (Broughton)

10月9.57日 UT、John Broughton が発見。(IAUC 8621, 2005 Oct. 25) 19年の周期彗星。

P/2005 U1 (Read)

10月24.3日 UT、Michael T. Read が Spacewatch サーベイのプログラムコースで発見。(IAUC 8624, 2005 Oct. 28) 5.6年の短周期彗星である。

その他比較的明るい彗星は、C/2005 E2 (McNaught) (写真 c)、C/2004 Q2 (Machholz)、C/2003 K4 (LINEAR)、C/2003 WT₄₂(LINEAR)、9P/Tempel 1、C/2005 A1 (LINEAR)、P/2005 R2 (Van Ness) (写真 d)、37P/Forbes などであった。



(写真 c) C/2005 E2 (McNaught) 2005,10,31

20h 30m ~ 21h 00m (NZST) exp.2m x11 41cm L + EOS 10D

© John Drummond, Gisborne, New Zealand



(写真 d) P/2005 R2 (Van Ness) 2005,10,13

1h 14m ~ 38m (JST) exp.12m x2 60cm L + Acros 100

芸西天文台 関 勉